

## 令和2年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム

1. 日時 令和3年3月6日(土) 13時00分～16時00分
2. 場所 県民交流プラザ ビッグ愛 1階大ホール・展示ホール
3. 参加者 教職員、学校運営協議会委員、教育委員会職員、共育コミュニティ関係者、公民館職員、家庭教育支援員、PTA関係者等 合計76名

### 4. ねらいと成果・課題

テーマ：和歌山の「**み**りよくを創る！ **み**らいを創る！ **み**んなで創る！」（3つの**み**）

#### (1) ねらい

次のステージへの挑戦として、きのくにコミュニティスクールの発展・充実期をより豊かにするため、関係者が一堂に会して共通理解を図り、取組の発展につなげていくことを目的とする。

#### (2) 成果

講演では、なぜ今コミュニティ・スクールなのか、という制度の背景から、地方創生につながる効果を知ることができた。制度全体を広く見渡した上で、分科会での具体的な取組を聞くことにより、取組の意義を理解することができた。

#### (3) 課題

学校と地域、地域の各団体同士、学校教育行政と社会教育行政など、多様な連携がある中、それぞれができること・連携しなければできないことを分担して取り組む必要がある。「学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進」には、役割分担が不可欠であることをより一層周知していく必要がある。

### 5. 内容

#### ◆講演

「コミュニティ・スクールの次なるステップへ」

＜講師＞ 文部科学省CSマイスター

北海道科学大学 教授 出口 寿久 氏

#### ○なぜ今コミュニティ・スクールなのか

- ・コミュニティ・スクールは「社会に開かれた教育課程」実現のためのツール
- ・コミュニティ・スクールの導入で、地域と連携した授業の展開が可能に



#### ○学校と地域の取組を整理する学校運営協議会の事例（東京都三鷹市）

- ・学校の教育目標は、家庭・地域のサポートを得て実現していくもの
- ・教育目標をもとに、学校・子供・家庭・地域がそれぞれ取り組むことをマトリクス表に整理 ⇒ 効果的な活動へ

- 既存の組織・団体と連携し、役割分担して課題解決をめざした事例（福岡県春日市）
  - ・第1ステージ：学校運営協議会において、子育てのねらいを共有し、学校・家庭・地域の役割分担を明確化。新しい組織や会議をつくるのではなく、既存の組織の活動に位置づけた。
  - ・第2ステージ：「学校と家庭」、「学校と地域」、「家庭と地域」のように、2者が協働するコンビネーション・プロジェクトを実施。学校運営協議会において、教育目標をもとに「誰が」「何を」するかを決めていく。
  
- コミュニティ・スクール導入・推進にあたってのポイント
  - ・PDCA ⇒ P・C・Aに地域の方々が参画、Dはそれぞれが役割分担して実施
  - ・学校運営協議会委員の選出 ⇒ 幅広い年代で学校の応援団をつくるつもりで
  - ・持続的な関係づくり ⇒ 教員・保護者・児童生徒・地域住民等には、制度について繰り返し伝え続けていく。制度導入後であっても、新入生・保護者を中心に伝えていくことで、地域愛の育成につながる。
  - ・仲間づくりの場 ⇒ 研修等をとおして制度や効果を知ること、中心となる人物が育っていく。
  
- 学校を核とした地方創生
  - ・行政サービスの充実 ⇒ 地域の間人関係が希薄化し、他人任せ（行政任せ）に
  - ・和歌山県の人口減少 ⇒ 都市の消滅が差し迫っている状況  
地方の公共サービスの維持が困難に  
すべての年齢層で支え合う仕組みづくりが必要
  - ・地域運営組織（総務省事業）：公民館をはじめとした既存の組織が地域課題の解決のために役割分担しながら取り組む組織
  - ・地域運営組織やコミュニティ・スクールが地域活性化の核に  
⇒和歌山県の共育コミュニティに関わっている方々の思いを、子供だけでなく多くの年代に広げ、「できることを、できるときに、できる人が」取り組む地域づくりにつなげてほしい。
  
- コミュニティ・スクールの次なるステップへ
  - ・熟議の中で現在の取組を整理 ⇒ これから何ができるか、誰が・何を・どう実現していくかなど、具体的な話し合いを行う。
  - ・マトリクス表の活用 ⇒ 目標やビジョンを共有した上で、活動を整理・分担し、それぞれができそうなことをまずやってみる。実行し、見直すことを繰り返す。
  - ・win-winの関係づくり⇒ 学校のため・先生のためではなく、子供たちのために
  - ・持続可能な地域づくり⇒ 楽しそうに活動する大人を見ることで、子供たちも一緒に活動したくなる。地域の方々の協力が不可欠。
  - ・童謡「ふるさと」：「志を果たして いつの日にか帰らん」が「志を果たし『に』」となることを願っている。
  - ・教育にできることは、子供たちに生まれ育った地域を愛する気持ちを育むこと。

## ◆分科会【ミニ講演会】（1階大ホール）

講演1：「未来の地域づくりにつながる公民館活動」

<講師> 和歌山県CSマイスター 大浦 俊一 氏

### ○これまでの経験から得たもの

- ・学校（農業教育）に関わって ⇒ 「継続は力」、「磨けば光る」  
「失敗は経験になり、経験は生きる力になる」
- ・教育行政と社会教育に携わって⇒ 「顔の見える付き合い」  
「学びは年齢に関係しない」
- ・定時制・通信制教育に関わって⇒ 「人を育てるのは人」、「ピンチがチャンス」  
「学校も含めた地域で子供を育てる」
- ・自治会・公民館に関わって ⇒ 「地域への恩返し」、「子供は地域の宝」

### ○妙寺公民館の事業から

- ・運営方針「4つの愛」

集いあい（集う）、  
学びあい（学ぶ）、  
ふれあい（交流）、  
むすびあい（つながり）ができる公民館



- ・地域の課題解決に寄与できる公民館 ⇒ 地域の活性化へ

### ○子供たちと関わる公民館事業

- ・げんきっ子ふえすた ⇒ 町役場担当者や近隣の公民館、児童館が集まって企画  
当日は子供たちによる運営
- ・公民館施設を活用した通学合宿

### ○町役場との連携

- ・「まちづくりプロジェクト」 ⇒ 町役場職員が中心となって企画  
定期的な協議  
小学生～高校生の力を活用

### ○今後の活動に向けて

- ・地域の宝（子供）と大人をつなげる公民館に
- ・幅広い年齢層の交流し、ナナメの関係をつくる機会に
- ・工夫しながらの継続を
- ・「ダメだったらもう一回出直せばいいじゃないか」  
（星野仙一氏の言葉）
- ・「カタツムリ そろそろ登れ 富士の山」（小林一茶）



## ◆分科会【ミニ講演会】（1階大ホール）

講演2：「学校の教育活動が豊かになるコミュニティ・スクールづくり」

＜講師＞ 和歌山県CSマイスター 下田 喜久恵 氏

### ○学校と地域の協働

- ・単に協力して働くだけではない  
⇒「同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと」
- ・「支援・協力」から「協働」へ  
⇒子供たちの学びや育ちを共に支える対等な関係  
(イコールパートナー)



### ○これからの社会を見すえて

- ・子供たちに、AIに使われることなく共存できる力を
- ・子供たちに、早いうちから高齢者理解を
- ・学校の在り方は変わり、学校だけで解決できない課題が増える  
⇒「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」  
⇒社会に開かれた教育課程の実現へ

### ○学校の教育活動が豊かになるコミュニティ・スクールづくり

- ・地域にとっても、学校にとってもプラスになる活動を意識して
- ・みんなでつくるコミュニティ・スクールのためのしかけ

(例)

- ① 学校運営協議会規則の確認
- ② 役員会の開催
- ③ 委員による進行
- ④ ホワイトボードの活用
- ⑤ 守秘義務に係る報告
- ⑥ タイムリーな連絡体制・情報提供



### ○中学校での事例から

- ・できる人が(できる組織が)、できるときに、できる範囲で、できる組織が
- ・学校の中で何ができるか、学校から地域へ何ができるか
- ・教員の「やってみたい」からのスタート ⇒ みんなを巻き込んだ取組へ

### ○これからの取組に向けて

- ・人とのつながりづくり ⇒ 成果が出るまでに時間が必要
- ・成果を実感すること ⇒ 本気で子供たちの未来を考え、人とのつながりを大切にしながら前向きに、ゆっくり取り組むことでアイデアが生まれ、良い面が見つかる。

## ◆分科会【ミニ講演会】（1階展示ホール）

講演1：「学校・行政が描く地域の未来図」

＜講師＞ 和歌山県CSマイスター 大谷 裕美子 氏

### ○「支援」から「協働」へ

「協働」とは、地域・学校・家庭が win-win の関係

- ・お手伝い ⇒ 自身の活動の一部
- ・言われて ⇒ 自主的・自発的
- ・他人事 ⇒ 当事者意識
- ・負担感 ⇒ 自己有用感、生きがい
- ・学校のため ⇒ 地域のためにも

【ポイント】できることを、できるときに、できる人が、楽しく！



### ○学校運営協議会の充実のために

- ・報告だけで終わっていないか
- ・多様な立場の意見が出ているか
- ・責任をもって役割分担できているか
- ・資料作成や会議準備を学校だけに任せていないか
- ・思いのたけを話す熟議ができているか



### ○全国各地の取組をもとに

不易流行 … 「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」という柱は変わらない（不易）が、あらゆる手段を使う（流行）。

（例）

- ① 学校・家庭・地域のすべきことの整理（神奈川県厚木市）
- ② コミュニティ・スクール通信の発行
- ③ 職場体験学習の事業所開拓
- ④ 研修による方向性の確認
- ⑤ ワークシート版リーフレットの活用（山口県）
- ⑥ 各種団体コーディネーターをつなげたコーディネーターズの結成  
(大阪府立富田林中学校・高等学校)
- ⑦ 道徳教育を絡めた地域道徳の実践（京都府南丹市）

### ○「しくみ」の構築 ⇒ 「なかみ」の充実

- ・今あるものを活用して
- ・常に子供が中心に
- ・地域のおとなはみんな親

## ◆分科会【ミニ講演会】（1階展示ホール）

講演2：「地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進に向けて」

<講師> 和歌山県CSマイスター 森 博司 氏

### ○「現状把握」から「強み・魅力」の発見へ

- ・少子化 ⇒ ゆっくり、じっくり、時間をかけて協議
- ⇒ 課題の質を見極め、地域の活性化へつなげる
- ⇒ 串本西小中学校合同運動会開催へ
- ⇒ 学校の理解者である学校運営協議会委員・コーディネーターの貢献
- ⇒ ピンチをチャンスに！

ナナメの関係  
の構築

### ・串本にはロケット企業がある！

- ⇒ ロケットに関する機運の盛り上げ
- 「ロケットのことを学んでほしい」
- 「将来の夢や希望を広げてほしい」
- ⇒ 串本町の子供たちだから経験できること  
(小中高15校でワークショップ実施)
- ⇒ 企業・町役場・教育委員会・学校の連携
- 学校の授業だけではできない経験
- ⇒ 子供たちから保護者に伝わり、多くの世代を巻き込んだ地域づくりへ
- ⇒ 各地域にある特色を最大限活かす取組に！

学校課題だけでなく、  
地域課題の解決も！

### ○学校運営協議会とコーディネーターの協働と役割分担

- ・学校運営協議会の役割
- ⇒学校や地域の課題克服の方向性を示して、じわじわと効いてくる漢方薬のようなもの。
- ・地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の役割
- ⇒具体的な活動を実施して、すぐに効いてくる即効薬のようなもの。

### ○学校運営協議会の今後の視点

- ・会議が「必要だから」開催する
- ・的確な課題の分析と、課題の克服のためのよりどころ
- ・学校長の課題意識と方向性
- ・教職員の理解と協働
- ・地域の実情把握



### ○地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進に向けて

- ・各学校・地域で課題を整理し、役割を分担する
- ・学校からだけでなく、地域からの提案による取組
- ・幅広い立場・年代の交流



## コミュニティ・スクール(学校運営協議会)に関する研修会アンケート【集計結果】

研修会名	令和2年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム
研修実施団体名	和歌山県教育委員会
研修実施日	令和3年3月6日(土)
CSマイスター等	出口寿久 氏 大浦俊一 氏 大谷裕美子 氏 下田喜久恵 氏 森 博司 氏

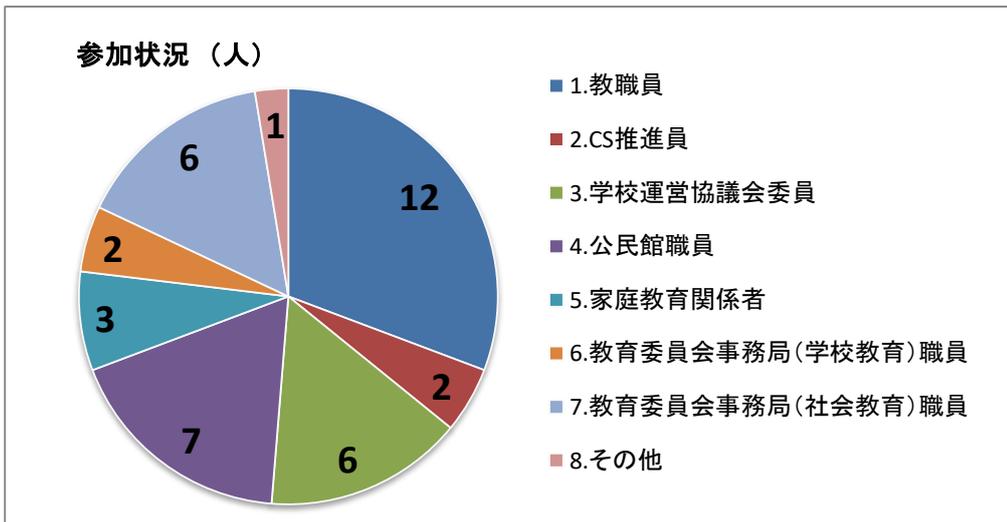
1. 所属、職種の状況について当てはまるものに○をつけてください。

1.教職員	12
2.CS推進員	2
3.学校運営協議会委員	6
4.公民館職員	7
5.家庭教育関係者	3
6.教育委員会事務局(学校教育)職員	2
7.教育委員会事務局(社会教育)職員	6
8.その他	1

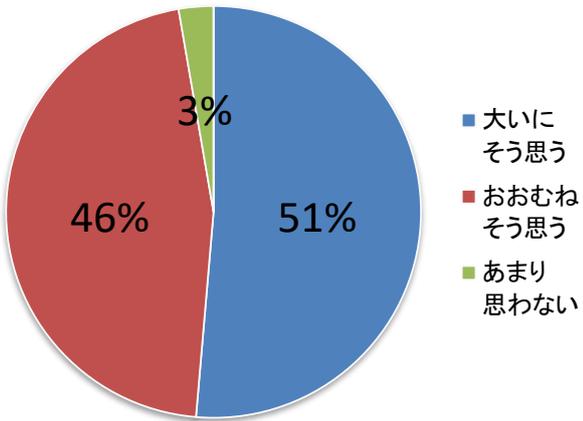
アンケート回収数  
**39 名**

2. 本日のフォーラムに参加して、もっとも近いものに○をつけてください。

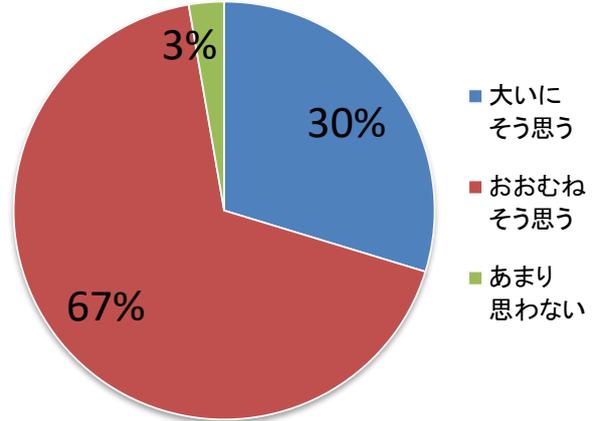
	大いに そう思う	おおむね そう思う	あまり 思わない	思わない
①コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進について理解できた。	19	17	1	0
②共育コミュニティ(地域学校協働活動)について理解できた。	11	25	1	0
③今後、それぞれの立場において、コミュニティ・スクールに関わる取組を積極的に推進していこうと思う。	19	18	0	0



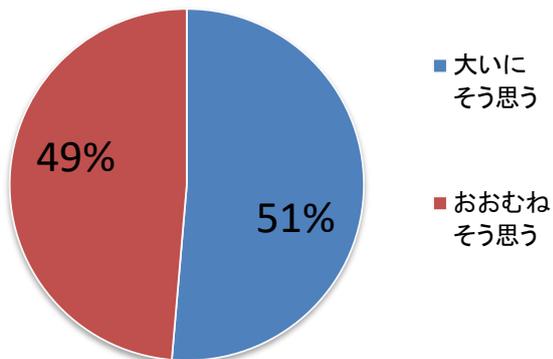
①コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進について理解できた。



②共育コミュニティ(地域学校協働活動)について理解できた。



③今後、それぞれの立場において、コミュニティ・スクールに関わる取組を積極的に推進していこうと思う。



### 3① 本日のフォーラムの中で、もっとも良かったところを1つ教えてください。

- ・ 全体的な内容の講演と具体的に取り組んでいる内容のミニ講演がセットになっていることがよかったです。
- ・ 子供たちがイベントを考え、自分たちで運営するなど、高齢者ばかりでなく、若い世代も取り込む必要があると思います。
- ・ 公民館活動など地域への具体的な取組がわかり、とても参考になりました。また、講演の中で良い言葉をたくさんいただきました。
- ・ 出口先生の講演で、コミュニティ・スクールについて、自身の理解が深まったように思います。下田先生の「時間をかけて心を込めてゆっくり進むと成果が出る」ということについて、ごもっともだと思いました。
- ・ それぞれの立場から大事にする点を具体的に聞くことができたので、自分の役割の中で生かしていきたいと思います。
- ・ 繰り返し聞くことでわかってくる内容かと思う。コミュニティ・スクールについて自分の理解が深まった。
- ・ より実践的なコミュニティ・スクールにするために必要なことを学べてよかったです。(人とのつながりが重要なので焦らず時間をかけて活動する大切さ等)
- ・ 今後取り組むべき課題が見えました。
- ・ 地方創生・地域共生社会の実現と併せて、学校を核とした地域づくりに関するコミュニティ・スクールについてお話だけだったことがよかった。
- ・ 1回のフォーラムで3名の方の講演を聴けたことがよかった。
- ・ 地方創生とコミュニティ・スクールは一体だということ。
- ・ 出口先生のお話の中から、学校の教育目標をもとにした取組表がよくできていると思いました。
- ・ 子供たちのため、学校・地域それぞれの立場でできることをやっていくということを確認できた。
- ・ CSマイスターの大浦俊一氏の話がわかりやすかった。
- ・ コミュニティ・スクールを推進するための公民館の役割。
- ・ 校長、団体長の働き具合は大きいですが、その2人だけに頼ってはいけないとの示唆をいただいたこと。
- ・ 出口先生の講演からコミュニティ・スクールを大きな視点でみることの必要性がわかりました。
- ・ 下田先生の講演が最も参考になりました。元校長先生ということもあり、学校側の視点で話が聞けてよかったです。学校運営協議会の在り方、持ち方がとてもよくわかりました。
- ・ なぜ今、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部が必要なかがとてもよくわかりました。
- ・ 公民館の具体的な取組みが知れたところ。
- ・ コミュニティ・スクールを核に地域活性化をめざす。
- ・ コミュニティ・スクールの理解がさらに深まりました。
- ・ 地域運営組織の考え方を知ることができたこと。
- ・ 地域住民が学校にとって必要であると実感できました。
- ・ ミニ講演会等で具体的な取組みについて知ることができてよかった。とても参考になりました。
- ・ コミュニティ・スクールの制度の根底には、人口減による「地方創生問題」の影響が大きいことが

理解できた。国家レベルで人口減少問題を改善させる必要がある。

- ・ 出口先生の熱い想いがビシビシと伝わってきたことがよかったです。  
(キャリア教育や地域教育は、地域の協力がなければできない。地域を愛する子供を育てることが大切。それを実現するにはどうすればいいか考えなければならない。)
- ・ 公民館をどう利用していくか。
- ・ 地域運営組織のこれからの役割と必要性を知ることができた。
- ・ 特にありませんが、ポイントポイントで現場に持ち帰り、推進していきたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの必要性・有用性・可能性を再確認できたこと。学校教育目標をもっとみんなのものとして広めること。
- ・ 出口先生のお話は、演題どおり「次なるステップ」に繋がる内容でとても良かったと思います。
- ・ 学校と地域が結びつき、子供を育てる。
- ・ 学校、行政が描く地域の未来図。
- ・ コミュニティ・スクールの成功のため、学校と地域の連携が重要と言われているが、その前に、行政の学校教育と社会教育の連携が重要と感じました。
- ・ 三鷹市の図。

### **3② コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を進める上で一番大事なポイントは何だと思えますか。**

- ・ 地域の人が多くが、地域を愛する心と子供のためにという気持ちを強く持つこと。
- ・ 学校、地域、さまざまところで人との連携が必要だと思えます。また、みんなを巻き込んでいくことも大切であると思えます。
- ・ 子供のために何ができるのかを第一に考えて活動を進めること。
- ・ 学校と PTA がどの程度、自分たちのことだと（自分が通っている子供たちのため）自覚して、学校運営協議会と接することができるか。地域と学校、家庭が一体化できること。
- ・ 「絆」だと思えます。地域の方も学校、子供のためにという想いをもっています。人と人とのつながりであり「絆」だと思えます。
- ・ 当事者意識をもつこと。誰かがやってくれると思ってしまう。
- ・ 制度の説明や教員の意識、勉強の機会等を教育委員会がサポートする必要があると思いました。
- ・ 各団体等が参入して一体となることが大事だと思う。
- ・ 学校運営協議会委員の人選・信頼（チーム化）。
- ・ 行政が現場を知り、関連部署と連携をとり、地域や学校と適切に関わっていくことが大切であると思えます。
- ・ 人と人とのつながり。
- ・ コミュニティ・スクールについて、子供たちや親に理解してもらいながら活動を進める。
- ・ それぞれの立場で子供たちのために何ができるのかを考えていくこと。
- ・ 地域、学校ともそれぞれのことをもっとよく知ること。コミュニケーションをとること。
- ・ 組織づくりと役割分担。

- ・ 風通しの良さ。
- ・ 社会全体におけるコミュニティ・スクールの位置づけや、進むべき方向を意識した上で進めていくこと。
- ・ 協働、Win-Win の活動になること。
- ・ 学校、家庭、地域の3者が子供たちのために Win-Win の関係をつくりながら、それぞれが支援・協働を行うこと。
- ・ 子供のために、Win-Win の関係を築く。
- ・ 熟議を重ねて地域課題の解決をめざし、目標の体制に向けて取り組み、協働しながら活動する。
- ・ 多様な立場からの発言。役割分担 = 学校運営協議会の活性化（学校教育目標の共有）。協働（Win-Win の関係）。
- ・ 誰がイニシアチブをとって組織を動かすか。当事者意識が重要。地域の地縁組織にどうやって協働活動に参加してもらうかが悩み。
- ・ 地域と学校の関係について、地域住民自身が気づくこと。
- ・ 参加する人とのベクトルを合わせること。
- ・ 地域人材の新たな発掘。協働活動に参加する方々の高齢化や地域全体の高齢化。人口減（若者の減少）。
- ・ 地域での素地づくりや組織をつくる時の人選が大切。校長先生や地域の指導者の皆さんのビジョンやリーダーシップが大切。
- ・ 持続できる取り組みであること。わかりやすい取り組みであること。
- ・ 出口先生のお話にもありましたが、委員の人選（主体的に行動してくれる人）や、PTA 組織の強化と活動の活性化（保護者への理解促進）が大切。大浦先生のお話にもありましたが、「失敗してもいいからとにかくやってみよう」という勇気が必要。
- ・ キーマン（皆の意見をまとめられ、コーディネートができる人）の存在。
- ・ 校長の理解と行動力。それを引き出す統括コーディネーターとの関係性。
- ・ 県内のほとんどの学校でコミュニティ・スクールが導入されているが、管理職以外のどれだけの教諭の方が、一度でも研修を受けたことがあるのでしょうか。管理職の先生や地域の方の言うように動いているようでは、やがてすたれていくのではないのでしょうか。夏休み期間中にでも多くの研修をもっていただきたい。研修もコロナの影響もあると思いますが、随分少なくなりました。
- ・ 協議会の委員が「みんなで取り組まなければ」と思えるよう、必然性を感じられる熟議を仕掛けること。できたという達成感や成功体験を共有すること。コミュニティ・スクールのための協議会になるのではなく、学校・地域のための協議会になること。
- ・ 学校と地域がお互いに積極性をもつこと。
- ・ 支援、協力から協働。
- ・ 幅広い視点と人脈。
- ・ 地域に愛される学校づくりと学校に愛される地域づくりであり、互いに子供のためと思えるかどうかであると思います。
- ・ 推進員の候補、発掘。

#### 4 その他、お気づきの点があればお書きください。

- ・ 自治会等、もっと広くフォーラムを告知して欲しい。
- ・ 今日の先生のお話をデジタルで何回も見直したいです。
- ・ コロナ対策が徹底されていたので安心できました。
- ・ やや紙資料の画像が小さい。
- ・ 下田マイスターの話はもっと聞きたいと感じた。
- ・ 両方の会場のテーマに興味があったので、1会場しか聞けず残念でした。
- ・ ミニ講演会の前、後半で移動ができ、参加できる組み合わせを考えることができるのはよかったと思います。
- ・ とてもよい講演会でした。
- ・ 地域や学校の実情に応じて、時には強引な手法も取り入れつつ、少しでも理想のコミュニティ・スクールに近づくよう努めていきたい。
- ・ このようなフォーラムを県内各地方単位でできないか。